

【2020 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/福祉学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
精神保健の課題と支援Ⅱ (福祉心理学科)		必修 (精.心) 選択 (社)	2	2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
古川 奨	B313	t-furukawa		水曜日 12:10~13:00	
授業の目的・概要	<p><目的>精神の健康についての基本的考え方を理解し、現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実際及び精神保健福祉士の役割や関係職種や連携機関について理解する。また、国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解することを目的とする。</p> <p><概要>同時双方向型授業を通し、精神保健に関する精神保健福祉士の役割と地域精神保健に関する諸活動について理解を深める。</p>				
学習上の助言	最新の施策の動向と地域の実践事例と照らし合わせ精神保健について考える力が必要となるため、新聞やニュース等から最新の情報を収集しながら理解を深めてほしい。				
教科書	新精神保健福祉士養成講座2 第3版 精神保健の課題と支援/編：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟/中央法規				
参考書	適宜紹介する。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	現代社会の課題から精神保健活動が必要とされる領域や場について理解する。			HSU(1)(2)(3)(4)(5)(6)	
②	精神保健に関する調査、諸外国の取組みについて理解する。			HSU(4)(6)	
③					
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション (授業の進め方、評価についての説明) 障害者福祉を学ぶことの意義について	同時双方向型授業	教科書の目次全体を読み後期テーマの全体像を把握する。	2	
2	精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割①について学習する。	同時双方向型授業	指定教科書の同目次部分を閲読する。	2	
3	精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割②について学習する。	同時双方向型授業	指定教科書の同目次部分を閲読する。	2	
4	精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割③について学習する。	同時双方向型授業	指定教科書の同目次部分を閲読する。	2	
5	精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割④について学習する。	同時双方向型授業	指定教科書の同目次部分を閲読する。	2	
6	精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割⑤について学習する。	同時双方向型授業	指定教科書の同目次部分を閲読する。	2	
7	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ①について学習する。	同時双方向型授業	指定教科書の同目次部分を閲読する。	2	
8	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ②について学習する。	同時双方向型授業	指定教科書の同目次部分を閲読する。	2	
9	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ③について学習する。	同時双方向型授業	指定教科書の同目次部分を閲読する。	2	
10	地域精神保健に関する諸活動①について学習する。	同時双方向型授業	指定教科書の同目次部分を閲読する。	2	
11	地域精神保健に関する諸活動②について学習する。	同時双方向型授業	指定教科書の同目次部分を閲読する。	2	
12	地域精神保健に関する諸活動③について学習する。	同時双方向型授業	指定教科書の同目次部分を閲読する。	4	
13	諸外国の精神保健活動の現状および対策①について学習する。	同時双方向型授業	これまで学習した精神保健に関する事例を探す。	2	
14	諸外国の精神保健活動の現状および対策②について学習する。	同時双方向型授業	これまで学習した精神保健に関する事例を探す。	2	
15	14回までの総まとめ	同時双方向型授業	14回までの総復習をする。	2	
試	定期試験				

【2020 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/福祉学系】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		50	0	0	0	50	100
総合力指標	知識・技術力	50	0	0	0	0	50
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	10	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	10	10
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	10	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	10	10
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標		評価の実施方法と注意点				
試験	①	✓	定期試験を実施し評価する。試験内容は、授業で説明した内容から学生が達成すべき行動目標に示した部分の理解度を問う問題を出題する。	定期試験後、解説を研究室前に張り出す。			
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	適宜行うグループディスカッションの際の取組み、リアクションペーパーの内容を確認し、授業内容の理解度を評価する。	討論については各授業毎、まとめとして改善点を伝え、提出物については、必要事項について次回の授業で説明を加える。			
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>Teams を使った同時双方向型授業を行います。授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を奨励します。尚、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもあります。</p> <p>「授業計画」の事前事後学習に加え、講義中に紹介した図書、映画、動画資料などを閲覧し、幅広い視野から精神保健についての学びを深めることを課題として課す (28 時間)。</p> <p>教員の実務経験： 教員の実務経験：ソーシャルワーカー、精神保健福祉士として 9 年の臨床経験。</p> <p>実践的授業の内容： 学生が身近に感じている福祉を共有しながら、教科書に記載されている一般的事項を確認する。精神保健福祉士としての教員自身の事例を示し、専門家が提供する福祉と地域住民が求める福祉に関する認識の違いについて学習する。</p>							